

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 12

学校名・団体名	白根開善学校中等部
HPアドレス	http://www.shirane.ac.jp/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	山で生き先人に学ぶ～白根開善学校「生活倶楽部」
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>自然環境のままことに厳しい山間僻地の山里での全寮制生活を、生徒自身が能動的かつ楽しみながら工夫して生き抜くことで、自然の恵みを実感させる。また、地元住民と交流し、指導も受けながら奉仕活動を行い、山里の暮らしで継承されてきた伝統行事や生活技術を知ることで、生きる力を身につけさせる。そのための活動グループとして8つの「生活倶楽部」を創設し、生徒は、各「倶楽部」の具体的な活動項目を設定し、顧問教職員とともに放課後や休日に活動することとしました。</p>	

以下、各「生活倶楽部」ごとの活動報告を致します。

- * 「便利屋開善」：季節に応じた生活環境の整備・保全活動（道路清掃・落ち葉の堆肥化・道路支障木除伐・各種工具修繕・冬季暖房用の薪調達・町道の直営舗装・校内除雪作業・生徒全員のスキー板クリーニング及びチューンアップ等）と他倶楽部の応援活動（「野鳥の森」造成・地域除雪ボランティア・地域花植え・「どんど焼き」作り等）のかたわら、今年度は、生徒たちの念願であった「魚の棲む池」造成を企画。水源調査・敷地造成・工事・補強作業を経て完成させました。集落の河川に実釣に行き、生け捕った魚を放流し、さらに、当地区河川に放流実績のある養魚場からの岩魚と山女魚を放流し、文化祭でお披露目し、地域の来場者も参加しての「釣り大会」も実施できました。厳冬期の現在も悠々と泳ぐ魚たちを観察しに生徒たちは池を廻っています。新年度は繁殖を目指し、川虫類が生育できるようピオトープの新設・付帯施設増設の計画も生徒発案でなされています。稚魚から成魚への成長を観察できるよう、池の周囲の整備と鳥獣被害の防止柵設置、さらに、貴重な水資源の新たな活用として、自生するわさびの移植も行う計画です。

年間を通して、安全に配慮した服装、安全・適切な道具の使用と整理整頓、安全確保と作業効率を高めるための協調・協力姿勢の指導を徹底したことで、安全に配慮する意識は、自然と身についています。また、勤労作業を軸とする本校授業の「労作」で、部員は常に他生徒の手本であり、作業リーダーでした。

額に汗して働くことの充実感と、出来高の見える作業体験の積み重ねが喜びとなり、また、自分たちの働きが、他の生徒や地区住民に感謝され必要とされているということを自然に感じ取れたことで、さらに意欲的に作業に取り組む姿勢を育んでいます。

- * 「開善奉仕隊 吉川組」：自給自足のための椎茸栽培を行っています。樫材を本校敷地内の山林で調達して玉切りし、椎茸の種駒を埋め込みました。前年度埋め込んだものは収穫でき、本校食堂で調理され給食に出されました。後輩たちに受け継いでいく仕事です。また、地区住民の農家の菌植作業の手伝いもしました。さらに、高齢者ばかりで重労働が難しい近隣地区の保全活動に参加しました。道路愛護活動・直営舗装工事・道路側溝浚渫・花植え・小正月行事「どんど焼き」作り・防火水槽や高齢者宅周辺の除雪作業等、奉仕作業の内容は、高齢者の安全な日常生活に直結するものばかりです。

休憩時間にお茶やお菓子をいただきながらお年寄りと語らう時間は、現代の子どもたちに最も欠けているもののひとつです。作業中は「これはこうすれば上手にできるよ」と教えられ、作業終わりに「ありがとう、助かったよ」と言っていただけの経験の積み重ねは、都会から本校に入学してきた生徒にとって、「第二のふるさと」での生活体験として他では得られないものであり、奉仕活動そのものが、自分の生活圏で当たり前になすべき行為であることを自覚することにつながっています。

- * 「佐々木土建」：本校理事長と一緒に森で汗を流すことを目的として創部されました。昨年度より、バードウォッチングの好きな生徒とともに始めた「野鳥の森」造成と「山菜畑」作りを今年度も継続しました。森の樹木を間伐し、日光を差し入れたことで、タラの芽や蕨などの山菜が育ってきました。来年度収穫して、生徒たちが自宅に「ふるさと便」として送ることもできるようになりました。「野鳥の森」は来年度、間伐材を利用した木道を整備します。残りの間伐材はすでに今年度、「便利屋開善」の部員と「労作」の授業によって、冬季暖房用の薪に変わっています。中には樫木もありましたので一部を椎茸木に利用しました。残りは来年度、炭焼き実習に利用します。木炭は例年、保護者が来校した際のバーベキュー大会などに利用するものです。さらに、前述の養殖池「ガラケ池」の土留め材としても活用しました。栗の大木があったので、それを成形・塗装して本校の案内看板を制作し、地区の道標として設置もしました。また、「ドローン」で7万平米の本校敷地の空撮を行い、母校の山林と建物の風景を、違った角度で認識できたことは、生徒にとって大変新鮮だったようです。

「山に無駄な物なし」ということで、伐材の有効利用を実践しています。

- * 「園芸部」：苺栽培の部と花卉栽培の部に分かれており、それぞれに違う部員が参加しています。

苺部では今年度、観光イチゴ農園に行き、イチゴ狩りを楽しみながら本職の方から栽培に関するアドバイスをいただきました。ニンニクを使った土壌改良がその一つです。施肥のタイミングや摘果の実際も学び、校内の栽培に役立てました。摘み取った実は、部員が試食するだけでなく、他の生徒にも味わってもらいました。苗を育て、休眠させておき、来年度それを移植して育てていきます。

花卉部では、土壌改良から始めて、数種の花の種植えから、花が咲いて散るまでを観察し、それらを共同研究としてまとめたものを、自由研究の授業である「テーマ学習」の成果を語る「校内発表会」で発表しました。生育の様子が分かりやすく記録され、疑問に思ったことや苦労した点などが素直に述べられた発表で、年度末に行われる保護者参観の「最終発表会」の発表者5組に選ばれました。

イチゴや色とりどりの花々が校内を飾る風景は、来校者に大変好評でした。チューリップの球根は、文化祭で来客の皆様に無料配布され喜んでいただきました。日ごろの取り組みが研究発表に結び付いた点は、本校「生活倶楽部」創設の目指すところでもあったので、ひとつの成果として他のクラブの範となりました。

<活動・研究報告>

* 「生産文化部」：野菜作りと食品加工を行っています。今年度は、トマト・きゅうり（当地固有の「入山きゅうり」）・蕪・大根とほうれん草（農業実習として本校職員所有の畑で栽培実習）・オクラなど多品種栽培に挑戦して、その生育を観察しました。夏季休業中に部員が登校し、「収穫祭」を実施しました。無農薬で行いましたが、虫に新芽を荒らされたり今夏の長雨も影響して、収穫は微々たるものでした。そうした中でも、大根・ほうれん草・きゅうりはまずまずの出来で、食品加工の実習に利用することが出来ました。大根は、切り干し大根とたくあん漬けにしました。ほうれん草のお浸しも含めてこれらは、本校食堂で給食として供した他に、文化祭や保護者来校の折に無料提供致しました。食品加工では他にも、部員の希望でデザート類を幾種類か作りました。調理分野に進学する部員は、この食品加工の様子をレポートにまとめ、「テーマ学習」の発表会で発表し、進学用願書にもレポートを添付して在学中の活動実績の一つとして申請しました。

生産文化部では、農業実習を行う正規部員のほかに、食品加工を行う場合は適宜、全校生徒に呼び掛けて希望者全員が参加できるようにしました。お正月飾りの鏡餅をあられにして全校生に配ったり、「どんど焼き」で焼いて食べて無病息災を祈るための「繭玉」も作ったりと、田舎の食文化伝承にも一役買ってくれました。

* 「文芸部」：旧「図書委員会」の活動を深化・発展させた倶楽部として再発足させたものです。インターネット時代にあって、書籍の良さと有益性を生徒に啓蒙するのが目的です。具体的には、本校関係者から頂いた大量の寄贈本の整理と史料価値のなくなった雑誌類の整理・廃棄活動、さらに、図書館利用の留意点のアナウンスと定期行物としての「図書館だより」の発行・配布などを行いました。部員はみな読書好きなので、新刊本の紹介や図書館での飾りつけなど、他の生徒が読書に親しむよう、図書館利用のしやすさを高める活動を日常的に行ってきました。「テーマ学習」で各生徒が自分の研究に利用するための書籍を紹介してやるなど、「司書」的活動を行えるよう活動しています。

* 「美化倶楽部」：旧「美化委員会」の活動を深化・発展させた倶楽部として再発足させたものです。校内美化に関する点検・清掃活動・必要備品の製作・生徒への指導などを行いました。週一回の校内美化点検活動で気づいた事・改善すべき事を生徒に向けてアナウンスしたり、点検しながらの清掃活動を行いました。また、校内各廊下の掲示物を、内容によって分類し、掲示場所を決めて教職員に提示し、貼り替えを行いました。さらに、生徒会・部活動・当生活倶楽部別の「お知らせボード」を製作して、各顧問から各部の部員への連絡がスムーズに行えるようにしました。製作物としては他に、薪ストーブで火傷を防止するための安全柵なども設置しました。

こうした一連の活動で、部員の美化への意識の高まりと、他の生徒のそれが同様に高まったことが成果として表れています。

* 「やまんど倶楽部」：山の生活を楽しむ目的で高等部校長が創設した倶楽部です。本校には発達障害の生徒も在籍しており、その生活技術養成の為に、「生産技術センター」を併設しています。ここは、本格的な養鶏と花豆生産を中心とする農業を行っています。このセンターで、希望生徒と学校長が必要と判断した生徒を誘って、鶏の餌やりから鶏舎の清掃・採卵、そして農業実習をしながら、生産物そのものを使ったカステラや甘納豆、ケーキなどを作り、寮生活する全生徒のための「夜のおやつ」として配っています。動物の世話や、食品加工の際の計量や文化祭での対面販売の経験は、楽しみながらの基礎的な計算力養成や対人コミュニケーション養成の場となっています。

<まとめ>

親元を離れて、自然環境も対人関係も厳しい山の中で生活すること自体が、生徒をたくましく育て上げることとなります。多くの卒業生が、懐かしがって本校をよく訪れてくれます。ここに加えて、楽しく生活し、山の生活を自分たちの創意工夫で変えていき、地元住民との交流を図りながら、心豊かに暮らすことが、貴重な体験となります。「何も無いなら自分で創る」、「できないと思わずやってみる」というのが、開善学校「生活倶楽部」の目的です。バーベキュー棟が欲しければ建設し、サウナが欲しければ設計図や消防法を勉強して作ってしまう。昨年までのこうした活動を、今年度も各倶楽部の部員の提案で実施してきました。すでに新年度の「やりたいこと」も提案されています。ひとりでいくつかの倶楽部を掛け持ちして、自分の興味・関心に従って生き生きと過ごすことが出来る生徒が増え、それを体験学習の成果として発表する生徒も多くなったことが、何よりの成果と言えます。貴財団からの助成金は、大変有り難く存じます。以上です。